

ドクターからの 健康アドバイス

- ※本ページの内容は当院の医療専門職が監修・執筆しています。
- ※内容は一般的な健康情報であり、診断・治療を目的としたものではありません。
- ※本ページには医師以外の医療専門職による記事も含まれます。

日帰り手術もしています

小児の鼠径ヘルニア

こんにちは。小児の鼠径ヘルニアは小児外科疾患の中では一番多い疾患になります。よく脱腸と言われる疾患です。今回は、鼠径ヘルニアについてと、その日帰り手術についてお話をしたいと思います。

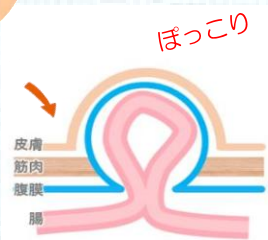


小児外科部長 谷 岳人

Q1. 鼠径ヘルニアって？

よく聞く「ヘルニア」という言葉は、ラテン語で「飛び出す」という意味です。背骨の間の椎間板が出てくる病気を「椎間板ヘルニア」、おへそから下腹の中の組織が出てくる病気を「へそヘルニア」（いわゆる、でべそ）といいます。

そして、鼠径ヘルニアは足のつけ根から、腸や卵巣、内臓脂肪などがおなかの中から皮膚のすぐ裏側まで飛び出してしまう病気です。小児の鼠径ヘルニアは小児外科疾患の中では1番多く、一般的には「脱腸」と呼ばれています。



巾着袋のようになっているヘルニア囊に腸などが入ることで体表がポコッと膨らみます

Q2. どんな症状がありますか？

泣いたりうんちをしたりといった、おなかに力が入ったときなどに、鼠径部または陰嚢あたりにぽこっと柔らかい膨らみが出てきて、手で押すと元に戻ります。これは、腸管または大網という腹腔内の脂肪を含む組織が、ヘルニア囊と呼ばれる巾着の袋のようなものに脱出することにより起こります。女兒の場合は卵巣が脱出して起こることもあります。

Q. ほっておいても治る？

A. 脱出した臓器は手で押し戻すことはできますが、脱出を繰り返します。ごく小さい赤ちゃんの時期を除いて、自然に治る可能性は極めて低いので、まずは小児外科の受診をお勧めします。



Q3. なぜ手術が必要なの？

膨隆があっても引っ込む場合は問題ないのですが、脱出した臓器がヘルニア嚢にはまり込んで戻らなくなる、嵌頓（かんどん）を来すことがあります。嵌頓すると脱出臓器が締めつけられて血流が阻害されるため、最悪壊死してしまうことがあります、ほっておくと命に関わる状態になることがあります。この嵌頓を予防するために、診断がつけばできる範囲で早めの手術を受けていただくことをお勧めします。

あれ？戻らない・・・？

戻らないときは要受診!!

緊急

いつもは柔らかかった膨らみが急に固くなり、圧迫しても戻らなくなる（嵌頓）と、こどもは不機嫌になり、痛みを訴え、やがておなかがはってきて嘔吐することもあります。「嵌頓かも」と思ったら、慌てずに抱っこなどして泣かさないようにして、すぐに愛染橋病院に電話してください。

緊急手術になる場合もあります。

Q4. 手術について教えてください

手術の方法には、昔から行われている鼠径部の皮膚を1～2 cmほど切開して行う従来法と、腹腔鏡で行う方法があります。近年、女兒については多くの施設で腹腔鏡にて行われるようになりました。男児についてはヘルニア嚢に精巣へ行く血管と精子が通る精管がひっついているため、腹腔鏡で行う場合は熟練の操作が必要になります。そのためまだ多くの施設で従来法にて行われています。

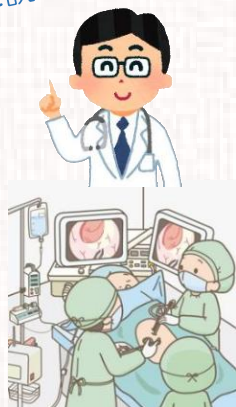
当院では男児・女兒ともに腹腔鏡で行なっております。手術は従来法と同じように安全に行なっており、手術の傷もほとんど目立ちません。また、鼠径ヘルニアは日帰り手術が可能なので、病院に泊まる必要はありません。



愛染橋病院では 日帰り手術が可能です

Q5. 愛染橋病院の鼠径ヘルニア腹腔鏡手術は？

ご説明します



腹腔鏡手術は、お腹に数ヶ所の小さな穴を開けてカメラ（腹腔鏡）と器具を挿入し、映像を見ながら行います。メリットは傷が小さく目立たないことなどがあります。

当院では、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（LPEC法）を行っています。手術は小児麻酔専門の麻酔科医による全身麻酔と、へその両横の神経ブロック（痛み止めの注射）を併用して行います。へその中を切って腹腔鏡と呼ばれるカメラを、右下腹部にマジックハンドのような細い道具（鉗子）をそれぞれ入れ、腹膜鞘状突起の根元に近い股のつけ根の部分から糸をつけた特殊な針を刺して糸を通して、これを縛ってヘルニアの出口を塞ぎます。